

上条 報告

第24号
平成23年5月

甲州市教育委員会
☎32-5097

甲州市 近代産業遺産 宮光園について

本年三月二十六日から、市内勝沼町下岩崎に所在する宮光園が一般公開されています。

宮光園とは、明治二十五年に設けられた宮崎葡萄酒醸造所と観光ぶどう園の総称で、創業者である宮崎光太郎の名に由来します。

勝沼地域には、明治以降の近代産業遺産が数多く残されています。中央線の旧鉄道トンネルを利用したワインカーヴや大日影トンネル遊歩道はよく知られていますが、大正時代の実験的な砂防堰堤である勝沼堰堤や、昭和初期のコンクリート製アーチ橋の祝橋、私銀行として利用されていた藤村建築の旧田中銀行など、塩山地域とはまた違った景観があちこちに残されています。宮光園も、こうした近代産業遺産の一つとして、平成二十年から保存修理工事が行われてきました。甲州市の新たな観光と学習の拠点として整備された宮光園について、ご紹介します。



整備前の主屋の外観

ワイン醸造はじまる

明治十年（一八七七）祝村に日本初の民間ワイン醸造会社が発立されます。会社は「大日本山梨葡萄酒会社」と称しました。会社では設立後すぐに二人の青年をフランスへ派遣し、醸造技術を学習させます。青年の名は、高野正誠と土屋助次郎といい、二人は一年間の派遣を半年ほどオーバーして帰国し、最初のワイン醸造に着手しました。



高野正誠と土屋助次郎

当時はまだワインなどそう売れるものではなく、また、醸造技術の未熟から時間の経過で酸化が進み、商品にはならず返品されたものも多かったようです。そこでいったん醸造をやめ醸造法の研究を進めますが、明治十九年に会社は解散してしまいました。

宮崎光太郎は、会社の器具・道具をそのまま譲り受け、土屋助次郎（このころ「龍憲」と改名）とともに同年「甲斐産葡萄酒」の醸造をはじめました。宮崎は、先の会社と同じ轍を踏まぬよう、明治二十一年販売所として東京日本橋に「甲斐産商店」を置き、販路を開拓していきます。さらに二十三年には、醸造法に改良を加えたワインについて分析を医学博士に依頼し、翌年には帝国医科大学御用の命を受け、各病院の薬用に供せられることになりました。

宮光園とは

明治二十五年（一八九二）、宮崎は生産拠点を自宅に移すべく、私邸に第一醸造場を設けます。またこの年は、宮内省から「宮内省御用達」の免許を授かる記念すべき年でもあります。

明治三十七年には第二醸造場（いまのメルシャンワイン資料館）を建設し、商品が多様化されました。

旧国鉄中央線は、明治三十六年に八王子・甲府間が開通しましたが、この時点で勝沼駅は設置されていませんでした。ですが鉄道により大量に東京へ出荷できると踏んで新たな醸造場を造ったのでしよう。その後大正二年（一九一三）に勝沼駅が設置され、宮崎の読みはピタリと当たりました。

鉄道はワインを東京へ運ぶだけでなく、東京から勝沼へ人を運びました。宮崎は早くから観光事業に着目し、東京で客を集め自身のぶどう園でぶどう狩をさせ、その後一泊し昇仙峡を見学して帰るという観光コースを設定しました。観光ぶどう園「宮光園」は、勝沼駅が置かれる前年の大正元年に創設されています。

今回一般公開された主屋は、明治二十六年ころに建築された養蚕民家を昭和三年に洋風化したもので、二階正面の縦長の窓の意匠は、豆砂利洗い出しのモルタル壁とともに当時としては大変モダンな雰囲気醸していたものでしょう。



修理後公開中の主屋



二階の展示室

皇族と宮光園

宮光園には、大正から昭和にかけて多くの皇族が訪れています。

宮崎は明治後期から頻繁に、天皇陛下へぶどうやワイン、ぶどう液を奉献しています。ぶどう液の製造方法は、宮崎が確立したといわれています。宣伝効果を期待したのと同時に、苦勞して醸造した自信作をご賞味いただきたいと願うてのことでしょう。

皇族の来園は二十名を越えています。皇族来園時の様子を写した写真が、整備前には座敷の欄間に隙間なく展示されており、主屋のひとつの風景でしたが、パネルに直して他の展示品とともに二階に掲示してあります。

宮崎光太郎と松本三良

さんろう

宮崎光太郎は醸造主としてすべてを取り仕切っていました。販売店である甲斐産商会在日本橋にあったため、拠点は東京でした。

松本三良は、光太郎の娘と結婚し、光太郎の右腕として勝沼の醸造所を経営していました。皇族の写真を見ても、案内や説明をしているのは三良のほうが多かったことがみてとれます。

二人に共通しているのは、どちらもアイデアマンだったということです。光太郎は中央線の開通や勝沼駅の設置に伴い、醸造所を増設しワインの銘柄を増やし、観光事業も始めました。三良は観光ぶどう園としての宮光園の顔として、多くの写真資料を残し、印刷物を通して宣伝効果を高めました。園内に残されている多数の記念碑も三良の仕事です。



左から、東宮時代の義宮正仁親王（常陸宮・昭和26年）、貞明皇太后（大正天皇妃・昭和23年）、昭和天皇行幸（昭和22年）、北白川宮佐和子女王（のち東園佐和子・昭和5年）



宮光園の周辺には、国史跡・勝沼氏館跡をはじめ多くの史跡・文化財が集まっています。また、大日影トンネル遊歩道や大善寺まで含めると、一日ゆったりと見学することができます。宮光園以外にも、ぶどうの国文化館やワイン資料館があり、ぶどう栽培やワイン醸造について多角的に学習できます。